

令和元年度 社会福祉法人まどか 事業報告

1. 庶務報告

1-1 会議

令和元年度第1回理事会

日時 令和元年6月10日 18:30より 場所 社会福祉法人まどか ディルーム
議案 平成30年度社会福祉法人まどか 事業報告(案)について
平成30年度社会福祉法人まどか決算報告(案)について
役員改選による新役員の選出について
定時評議員会の開催日時について
その他

令和元年度第2回理事会

日時 令和元年6月27日 18:30より 場所 社会福祉法人まどか ディルーム
議案 新役員による理事長の選任
新役員による業務執行理事の選任
その他

令和元年度第3回理事会

日時 令和元年11月6日 18:30より 場所 社会福祉法人まどか ディルーム
議案 令和元年度実地指導等監査について
令和元年度 上半期の経営状況について
グループホームさくら増設計画について
その他

令和元年度第4回理事会 書面決議

議案 令和2年度社会福祉法人まどか事業計画(案)について
令和2年度社会福祉法人まどか予算(案)について
その他

令和元年度定時評議員会

日時 令和元年6月27日 18:30より 場所 社会福祉法人まどか ディルーム
議案 平成30年度社会福祉法人まどか計算書類等の承認について
社会福祉充実計画の承認について
役員任期満了による改選について
その他

2. 事業報告

2-1 地域活動支援センターⅡ型「まどか」

地域において雇用・就労困難な在宅障害者に対し、機能訓練、社会適応訓練、入浴等のサービスを実施、地域の実情に応じ、創作活動又は生産活動の機会を提供し社会との交流を図ってきた。後半は、新型コロナウイルス感染症の流行のため、新しい取り組みへと変化した。

(1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日	21	21	20	22	17	19	21	19	20	19	18	21	238
利用者	22	22	21	20	20	18	17	19	20	21	19	19	216
新規利用者				1					1				2
工賃作業者	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	63

(2) 利用者の障害特性をふまえた訓練、サービスを提供する。

通所ができる、続けて通所できる、作業に加わる、作業を続ける、など一つずつできるようになっていくよう支援をしている。

(3) 訓練内容・活動内容の充実

- ・OA機器の解体作業 ㈱リサイクルテック
納入されたものを解体し、パーツを素材ごとに分類、保管、入出庫数の管理等作業の工程を把握し、一連の流れを止めることなく作業が進んでいる。その他の分解作業もうまくできている。
- ・ネジの組み立て作業 新興アルマー工業（株）
組み立てミス指摘を受けることもなかった。工程ごとのチェックができている。
- ・サービス付き高齢者住宅「そよ風」へのおやつ移動販売。
商品の値札作成や、おやつ商品のセレクト、記録など指導員とともに行う。
- ・神愛幼稚園バザーの商品開発
例年通りダンボール、トイレットペーパーの芯などを使ったままごとセットは小さな子どもたちに大人気となった。どんぐりを加工したもの、松ぼっくりなど木の実を使用して作成したものは、大人にも好評で幼稚園の先生方も喜ばれていた。
- ・マスクづくり
入手困難となったマスクの作成に取り組み、近隣施設や法人関係者の必要数の確保をしながら「一丁目の元気」にて販売した。
- ・ミニミニバザーの開催
紳士物の衣類、靴下などのミニミニバザーを開催し、購入した利用者も選びながらうれしそうな表情を見せてくれた。
- ・入浴
入浴サービスを行い、入浴中に衣類の洗濯、乾燥サービスを行った。

(4) ミニデイサービスの充実

- ・ラジオ体操、カラオケなど楽しんでいる。
- ・クリスマスなどのイベント時には、利用者とともに食事作りをする昼食会を催した。
- ・利用者の青春時代の好みの歌、地域の様子、お祭りなどの動画を楽しんでいただいた。
- ・トイレットペーパーの芯を利用した季節ごとの作品を作成。クリスマスツリーや星など工夫をこらし、楽しい作品作成をしている。
- ・卓球大会を開催し、利用者とともに楽しんだ。

(5) 地域交流の充実

1.05.19 市民グループ「ドロップス」訪問コンサート

1.06.11 神愛幼稚園花の日訪問

1.07.07 七夕まつり

1.10.31 神愛幼稚園ハロウィーン訪問

1.11.02 神愛幼稚園バザー参加

小学生ボランティアに販売の協力をお願いした。

(6) 相談業務

グループホーム利用者、地域活動支援センターまどか利用者からの障害福祉サービス利用相談、就労相談、受診相談等を受けた。

(7) その他

感染症予防のため、換気、作業時間帯、ミニデイ利用時・作業中の人員の距離、手洗い、手指消毒、検温、室内の掲示物等工夫を凝らした。

2-2 共同生活援助（グループホーム）「さくら」「さくらⅡ」

地域において共同生活を営むのに支障のない障害者につき、主として夜間において、共同生活を営むべき住居において相談その他の日常生活上の援助を行う。また、介護等の必要な障害者につき、入浴、排せつ又は食事の便宜を供与する。

(1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入所				1	1								2
退所											1		1
入所者	9	9	9	10	11	11	11	11	11	11	10	10	123

異動

入所 A氏 51才男性 統合失調症 R1.7.1入所

兄と生活を共にし、支援を受けてきたが、兄にも仕事があり、病気、生活にと十分な支援ができず、入退院を繰り返してきた。兄と距離をとって自立を目指す目的で入所。

B氏 36才男性 知的障害 統合失調症 R1.8.1入所 日明病院より母、弟と3人で生活、母親は病弱で高齢。本人に自立をしてほしい。

退所 A氏 51歳男性。統合失調症 R2.1.31退所

心配や不安があるとイライラする、入院したいを繰り返す。自制することが出来ず、周囲を振り回す。入所1か月後入院。その後試験外泊を繰り返し、再チャレンジするも症状改善せず。長期入院が見込まれるため、退所。

体験利用 2名

A氏 51才男性 統合失調症 H31.3、 R1.5.21～5.23 2回目

B氏 39才男性 知的障害、統合失調症 H31.4.16～4.18

入院 A氏 さくら入所後より不安、心配からイライラする、入院したいと訴え。自制できず周囲を振り回す。入院希望により入院。

(2) 利用者の病状把握

日頃のコミュニケーションを大切にして体調、心の変化等に注意を向けている。必要ある入所者には同行受診。服薬確認は職員が必ず行う。定期的に体重、血圧測定を行って期間変化にも注意を向けている。内部、外部研修、ミーティングで病気、症状の理解を深めている。

(3) 生活スキルアップ援助

入所者にはグループホームに留まるばかりでなく、次へのステップアップを目

指してほしいと話している。そのために、必要のある入所者には掃除、洗濯、部屋の片付け、清潔、身だしなみ、健康管理、金銭管理など職員と一緒にいたりして援助している。

(4) 安心・安全な生活環境整備

外部不審者による施設侵入事件などの被害が起き、行政の指導もあっている。特に夜間帯には、職員の巡回、緊急連絡体制。

また、警備保障会社との通報・緊急対応システム契約、防犯カメラによる安心・安全確保対応を行っている。

(5) 感染症予防

手洗い、うがい、不要不急でない外出の自粛など感染症を予防するために分散して食事をするようにグループ分け、外出の際のマスク着用、帰着時の手洗い、うがい、手指消毒、密接、密集、密閉の三密をさけること、自分は感染しないといった思い込みを捨てること、など令和2年2月より毎週3回利用者へ説明を繰り返している。

(6) レクリエーション活動

31.4.13 グリーンパーク花見

1.5.19 市民グループ「ドロップス」 訪問コンサート

1.7.1 野球観戦 ホークス戦

1.11.2 神愛幼稚園 バザー参加

1.12.18 クリスマス・忘年会

2.1.2 初詣

(7) 事故報告

該当なし

2-3 指定相談支援事業所「相談支援センターまどか」

相談実績

計画相談担当件数

令和元年度の担当数は 56 名。

当法人ならではの「きめ細やかな支援」をもって要請にお応えしていきたいと考えている。

また、定期的に行われる指定相談事業者等連絡協議会で 新情報の獲得、他事業所との連携、事例検討を行っている。これらのことを利用者へのより良いサポートと事業運営に活かして行きたいと考えている。

請求実績（モニタリング、プランニング合わせて）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	4	8	12	4	10	15	11	9	11	14	7	14	109

※ 新規利用登録者 3 名

利用登録抹消者 6 名

利用登録抹消の理由

利用者死亡 1 名 長期入院による 1 名
高齢化によるもの 1 名 サービスの利用中止 1 名
相談支援専門員と合わない 2 名

令和元年度を振り返って

相談支援専門員の意見

平成 25 年開設当初からの利用者の大半が現在も利用中である。上記の理由の通り、利用者 と 事業所の相性が悪く、うまく機能できずに事業所変更となることもあるが、他の事業所から同様の理由で新規利用となることもあり、流動的な利用者像が浮かび上がってくる。

法人設立当初から、困難事例の対応場所、と認識されていた「まどか」だが、落ち着く場所がない利用者の受け入れ先となっているのは変わらずある。

しかし、利用者一人に対して、モニタリングの回数増加、といった制度の変更はこうした流動的で居場所がない利用者を担当することの評価がされていると思われる。

横のつながりとして他事業所との情報交換も進み、あまりにも交流困難な利用者を担当することは少なくなった。

利用者との信頼関係を深め、プラン作成以外の相談を受けることが多く、時間的に多くの顧客を持つのは難しいが、きずなを結んでこそのかかわりを深めていきたいと思う。日々の生活を穏やかに過ごしていただくため各機関とより一層協力して、落ち着きのある生活が送れるよう支援していきたいと思う。

2-4 公益事業

障害福祉制度、施策が整えられる中、その狭間に置かれ苦勞されている障害者、家族の支援を行っている。

(1) 福祉有償運送

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者	7	7	6	9	4	5	8	6	8	11	8	6	85
回数	26	24	13	23	8	26	21	16	25	30	24	18	254

登録ドライバー 4名

利用登録者 24名

登録自動車 2台 (法人所有1台、持込1台)

(2) 自費ヘルパー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者	1	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	21
回数	3	5	12	6	5	0	6	15	8	3	6	4	73

自費ヘルパーは制度によらない活動であり、利用登録制ではなく利用者本人、そのご家族から要請があったときに対応できる職員が活動を行う。

2-5 広報活動

若松みなと祭りに協賛をした。若松社協だより、若松環境衛生だよりに広告を出した。

2-6 利用者開拓・確保

医療機関、相談支援事業所、行政障害者相談窓口、福祉事務所、地域の障害者施設と綿密に連携をとっている。

R2.1.10 住田病院 地域連携室 訪問

R2.1.31 八幡厚生病院 医療連携室 訪問

グループホームとしてできること、対応できることを伝える。
病院がグループホームに求めること、意見などをいただく。

2-7 利用者の権利擁護

利用者の人権を常に尊重する意識、配慮を徹底している。

指導資料を職員ミーティング等の機会に確認している。

個人情報管理の徹底をはかっている。

苦情等の相談をしやすい雰囲気、人材配置をしている。

2-8 災害発生時の体制強化

各災害マニュアル作りをしている。ミーティング等で対応マニュアル、初動対応の理解をはかっている。

消防設備点検、避難誘導訓練を次のように行った。

消防設備点検 令和元年7月6日

令和2年1月24日

避難誘導訓練 令和元年7月6日

令和2年1月24日 地震避難訓練も同時開催

新型コロナウイルス感染症を含む感染症予防マニュアルの改訂をした。

2-9 職員研修

外部研修

○北九州市保健福祉局障害者支援課平成31年度集団指導

共同生活援助

平成31年4月14日

出席者 馬場

相談支援

平成31年4月14日

出席者 重松

○福岡ひびき経営大学

「安川電機の歴史と新たな挑戦」

株式会社安川電機 代表取締役会長 津田 純嗣 氏

平成 31 年 6 月 11 日

出席者 大庭

○福岡ひびき経営大学

「中小企業の審議上創生における知的財産及び IT 技術の重要性について」

有限責任監査法人トーマツ アドバイザリー事業部 シニアマネジャー 吾妻 勝浩 氏

令和元年 9 月 26 日

出席者 大庭

○北九州市精神保健福祉課

「措置入院者の退院後支援の取り組み」

令和元年 10 月 24 日

出席者 馬場

○北九州市精神保健センター

「被災後のこころのケア ト라우マと悲嘆への対応」

令和元年 11 月 7 日

出席者 馬場

○北九州市精神保健センター

「オープンダイアログのエッセンス」

令和元年 10 月 24 日

出席者 馬場

○北九州市精神保健センター

「被災後のこころのケア ト라우マと悲嘆への対応」

令和元年 11 月 14 日

出席者 馬場

○北九州市障害者社会参加推進センター

「防災について考える研修会」

令和元年 12 月 6 日

出席者 大庭

○北九州市精神保健福祉課

「令和元年度第 2 回北九州市発達障害者支援地域協議会」

令和元年 12 月 16 日

出席者 馬場

○北九州市精神保健センター

「ギャンブル依存症とその支援の実状」

令和元年 12 月 23 日

出席者 馬場

○社会福祉法人愛香会 見学

令和 2 年 2 月 4 日

出席者 大庭、重松

内部研修

毎週の職員ミーティングの中で次のような研修をした。

感染予防について

熱中症対策について

認知症、うつ病など精神疾患について

AED の使用方法について

GH さくらでの緊急対応について

障害種別の特性を生かした接遇について

業務管理体制整備研修、周知

職員による接遇、虐待等のセルフチェック

新型コロナウイルス感染症による職員体制等の対応

2-10 地域連携

地域行事に積極的に参加する。また、防災訓練等施設行事に地域の方、近隣施設にご協力していただいた。

自治会との非常時の協力体制を相互に確認した。

2-11 事業所連携

近郊の事業所と相互訪問し連携をはかっている。

2-12 職場環境整備

整理整頓、清掃、花壇・畑作り

2-13 施設老朽化対策

定期点検の実施、不具合箇所の早期対応を行っている。

地活のエアコン取替工事などを行った。